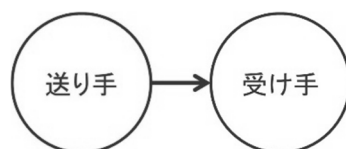


補足:オノ・ヨーコの芸術

●芸術における双方向コミュニケーションの可能性

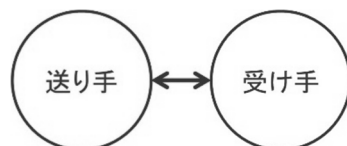
◆西洋近代の芸術的コミュニケーション回路(19世紀以降)

芸術作品は送り手(作者)のメッセージ、受け手はそれを一方的に受け取る



◆インタラクティヴィティ・アートにおける双方向コミュニケーション(20世紀後半から)

インターネットやデジタルメディアの発達が背景
 送り手と受け手の双方向コミュニケーションが追求される
 → 受け手の関与によって作品が成立する



●オノ・ヨーコのインストラクション・アート

オノ・ヨーコは1950年代末からインストラクション・アートを実践
 作者の指示により、受け手が何かをすることで作品が完結
 → インタラクティヴ・アートの先駆として21世紀に再評価



動画:NHK「新日曜美術館 オノ・ヨーコ 私のアート」より

オノ・ヨーコ(小野洋子 1933-)は日本のアーティスト。1952年からニューヨークに住み、60年代には前衛芸術家集団「フルクサス」のメンバーとしてジャンルを超えた芸術活動やパフォーマンスを行う。とくに観客に指示をして芸術創作に関与させる「インストラクション・アート」の創始者として重要。1969年、ジョン・レノンと結婚。その後はレノンと共同の音楽活動や平和運動が活動の中心となる。1980年にレノンが射殺されて以降しばらくは芸術活動から離れていたが、80年代末から再び創作を開始、同時に60年代の活動に対する再評価の機運も高まり、2000年10月に行われた「YES YOKO ONO」展はその後世界を巡回して注目を集めた。